

平成28年度 県立土浦第一高等学校（全日制）自己評価表

No. 1

目指す学校像	豊かな人間性の涵養と人格の形成を図り、次世代をリードする高い知性とたくましい心身を有し、社会の発展に貢献し得る人間の育成を目指す。 教職員の共通理解の下、生徒一人一人のより高いレベルでの進路実現を目指し、地域社会の期待に応える進路指導を実践する。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
授業第一主義による質の高い授業や生徒の能力を高める授業を実践しながら、高い目標を持たせ将来のキャリアを意識させた進路指導により、難関大学や医学部等への進路実績をおおむね達成できた。 部活動や委員会活動等に多くの生徒が積極的に取り組むことで豊かな人間性が育まれている反面、規範意識や社会性が未熟な生徒も見られるため、全人教育の視点に立った取組が必要である。 2年目の文科省指定のSGH事業は課題研究活動や発表会において1年目を超える成果が見られた。本年度は中間発表の年であり、目標達成をより強く意識した取組を推進しなければならない。 低迷が続いていた志願倍率は当初の目標を遥かに上回る過去最高の倍率を記録した。積極的な情報発信により本校の魅力を的確に伝えていく努力が必要である。	主体的学習態度の育成と質の高い授業の展開	①授業に対する意欲と理解を高め、自主的・積極的な学習態度を育成する。 ②自ら学ぶ意欲を高めるとともに、効果的な学習活動を支援する。 ③指導法の研究を通年でを行い、授業改善、指導力向上を図りながら、生徒の能力を高める授業を展開する。	A		
	豊かな人間性の涵養	④基本的な生活習慣の確立に努めると共に、部活動や委員会活動等への積極的な参加を促し、豊かな人間性の涵養と社会性の養成に努める。 ⑤挨拶の励行等によって、豊かな人間関係づくりを図る。 ⑥個別面談や教育相談を充実させ、生徒の悩みや課題の解決に向け支援する。	A		
	高い「志」実現に向けたキャリア教育の充実	⑦高い「志」を持ち、常に前向きに努力し続けることにより、自分の進路を自ら切り拓いていく態度を育成する。 ⑧個別面談等を通して生徒の自己理解を促し、高い目標設定と自己実現を目指す継続的な努力ができるよう、キャリア教育の充実を図る。 ⑨将来において、各界でのリーダーをめざすべく、個人の「伸びしろ」を伸ばすことができるように支援する。	A		
	グローバル人材の育成	⑩文部科学省指定のSGH活動を通して、課題研究などの探求活動を推進する。 ⑪世界に通用する人材を育成できるよう、課題解決能力やコミュニケーション能力、英語力の向上を図る。	A		
	学校情報の積極的発信と地域との連携	⑫学校の情報を積極的に発信するために、学校ホームページや学校通信等を充実させ、本校の魅力を伝える機会を増やす。 ⑬地域とのコミュニケーションやふれあいを大切にし、小中学校や町内会等と交流を図る。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度学期への主な課題	
教務部	自ら考える力を育てる質の高い授業を展開するための支援を充実させる。	授業時間の確保のため、授業補填率100%を本年も継続させ日々の時間割を円滑に運営する。①③	A	A	「高大接続改革」が進行している中であるが、本校の目指すべき教育を実現するために、授業改善の取り組みをより一層進めていく。「カリキュラムマネジメント」の重要性を踏まえ、教科の枠を超えた教育計画を今後進めていかなければならない。
		学校行事等を効果的・計画的に実施することで、生徒が意欲的に授業に取り組む環境をつくる。②	A		
		定期考査、及び実力考査、校内模試の問題検討会の実施を推進する。③	A		
		授業の相互参観を定常化させ、授業改善、指導力向上を議論できる機会を推進する。③	B		
次期教育課程と「新テスト」への対応を進める。	次期教育課程を踏まえ、生徒の能動的な学習活動の促進に向け研究を進める。「新テスト」への対応に向けて、将来の本校教育課程の検討を始める。SGH4年目での取組を踏まえた平成29年度教育課程を作成する。	①②③	A		
		①②③	B		
		①②③⑩⑪	A		
広報活動の充実を通し、教育活動の活性化を図る。	中学生に加え、小学生や地域社会に対しても本校をアピールする機会を推進する。SGHの取組も含め、本校の教育活動の姿をホームページなどを通して公開する。	⑫⑬	A		
		⑫⑬	A		
庶務部	学校、家庭、地域社会との連携と協力体制の確立に努める。	各学年後援会の活性化と、連携・協体制の充実を努める。⑨	B		
		各種PTA行事(後援会行事)への積極的な協力・参加を呼びかける。⑨⑫	A		
		PTA総会の出席者数の増加を図る。⑨⑫	B		
奨学制度の効果的活用を図る。	各種奨学金の情報提供に努め、生徒が有効活用できるようにする。⑨	A			
人権教育室	学校の実態を踏まえた人権教育の推進を図る。人権尊重の精神の涵養と民主的な人間関係を育成する。	人権感覚や人権意識を育み人権擁護の意識を高める人権教育の実践、特に、人権教育の観点にたった道徳やHR活動の実践を支援する。④⑤	B	B	HRや道徳の時間に教師が利用しやすく、かつ人権教育上、意義のある実践例や指導案等の資料の研究、充実を図る。
		教育活動全体を通して人権尊重の精神を養い、生徒に人権感覚や人権意識を育成するために必要な総合的資質・能力を高めることを目的とした職員研修を企画、実行する。④⑥	A		
		HR活動、生徒会活動、生徒が企画・運営する学校行事等における民主的な活動を支援する。④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
生徒指導部	基本的な生活習慣を確立させる。生徒自らが規律を守り、節度ある生活をしようとする態度を育成する。	挨拶の励行や制服の着こなし等の指導を通して規範意識の高揚に努める。 ⑤	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通危険箇所への立哨指導は継続して行いたい。登下校時の指導を通して安全への意識を高めさせるとともに、地域の一人としての安全、安心な社会づくりの重要性を認識させたい。 ・自転車盗難は、防止対策に重点を置きたい。 ・地域からの要望には迅速に対応できるようにしたい。 ・いじめの未然防止及び早期発見、早期解消に努める。 ・スマホの適正利用については、指導の工夫をする。
		交通ルールへの遵守を徹底させるとともに交通事故の防止に努める。 ④	B	
		登校時における昇降口での生活指導や、校外での交通安全立哨指導等を全職員が分担して定期的実施する。 ④⑤	A	
		携帯電話・スマートフォンやインターネットの適切な利用を指導する。 ④	B	
	生徒の実態をよく把握し、充実した学校生活を送れるように支援する。	マナーアップ運動等を推進する。 ④⑤	A	
		立哨指導やアンケート等を通して生徒の実態を把握し、学年等との連携を密にする。 ④⑤⑥⑧	A	
		いじめに関するアンケート調査を年間3回実施等、本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見、早期解消のために学校全体として一致協力して取り組む。 ⑥	B	
生徒の発達段階に応じた望ましい集団活動の意義の明確化と自発的な活動の充実に努める。	生徒会を中心に、学校生活の改善・向上や充実を目指した生徒の主体的活動を支援する。 ④⑨	A		
	各種委員会活動の活性化を図り、支援する。 ④⑨	A		
	生徒自らが企画・運営する学校行事への支援を工夫し、生徒の発想や創意を活かす。 ④⑨	A		
教育相談室	教育相談体制を確立する。	運動部・文化部等の積極的・自主的活動を奨励するとともに、学習と両立させるようにする。 ④⑨	A	
		教育相談室の広報に努め、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。 ⑥⑫	B	
		各学年や各校務分掌と連携し、学校への不適応が見られる生徒の支援にあたる。 ⑥⑨	A	
保健部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	教員のスキルアップを図るため、スクールカウンセラーを活用した研修会を学年ごとに開く。 ④⑤⑥	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会の充実を図る。 ・ホームページ等を通して随時情報を発信していく。 ・校内安全点検を行うなどして教室を中心とした校内環境整備に努める。 ・学校薬剤師と連携して環境衛生検査を実施し、校内生活環境の整備に努める。
		生活環境が衛生的に保つため清掃計画を作成し、責任をもって分担区域の清掃にあたらせる。 ④	A	
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ④	B	
生徒の健康管理を支援する。	周辺住民も参加した避難訓練を実施し、地域と連携した形での学校の防災力の向上に努める。 ④⑬	A		
	検診機関等が行う活動の準備、実施、事後措置に対し協力、指導する。 ⑥	B		
進路指導部	学習指導を支援する。	自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、ひいては将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する講演会を実施する。 ④⑥	A	
		効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握、担任を支援する。 ①②③	B	
		生徒の進路希望に即した授業や考査のレベルを維持するため、教科担当者が外部の研究会に積極的に参加するように促す。また教科内の作問などの検討を促す。 ③	A	
	生徒が志高く、自らの進路希望を実現できるようにする。	将来の生き方や生活、進路や職業について考えさせる学年ごとの行事への積極的な支援をする。 ④⑥⑦⑧⑨	B	
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の充実に努める。 ⑦	A	
		進路情報交換会を開き、課題の発見とその解決に努め、教職員集団として共通理解を持った進路指導ができるようにする。そのため進路指導部内のシステム化を図り、学年との連携を密にする。 ③	B	
	適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	生徒が志望校を考える資料として、進学要覧・合格体験記を作成し、生徒に配布する。 ②⑦⑬	A	
4月の学年後援会総会、7・12月の保護者面談の際、学年に応じた適切な進路情報を提供する。 ⑬		A		
図書部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	必要に応じて進路通信を発行したり、外部からの資料を配付し、生徒と保護者が進路について共通の認識を持てるように支援する。 ②⑦⑬	B	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して取り組んでいる蔵書整理をさらに進め、閲覧室及び書庫の風通しをよくする。 ・図書館の利用促進や新着図書の紹介等における図書委員の活動をより活発にする。
		各教科を対象に随時購入希望図書の調査をし、蔵書の充実を図る。 ①②③	B	
		蔵書の効率的利用と図書館内の安全確保のため引き続き蔵書の整理を進める。 ②	A	
		来館した生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を継続して行う。 ②	B	
読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ②④	B		
	課外授業及び視聴覚教材を用いた授業の場として視聴覚室を開放する。 ①②	A		
	生徒の自主学習を支援する場として、弾力的に図書館を開館する。 ②	A		
コンピュータ室	情報教育の環境を整備する。	図書部	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PC盗難・USBメモリ紛失等、「まさか自分が」の形で情報流出当事者になり得ることを生徒、教職員に情報モラルの定着という形で今後もアナウンスを続ける。
		情報セキュリティやウイルス対策といったネットワーク導入に付随する諸問題を検討・解決していきけるようにする。突発的に起きるトラブル等に対しても迅速かつ柔軟に対応出来るような用意しておく。 ②		
情報モラルに関する意識を高める。	授業などで情報モラル教育を推進するための資料の提供を行う。現在の情報技術を取り巻く社会環境についての具体的事例やその対処法等についても紹介していくようにする。 ①②④	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
学習館	自習場所として活用する。	清掃時に限らず、清潔な環境を保つよう心がける。また整理整頓を怠らず、使いやすい環境を整える。 ②④	A	A	自学に適した環境が公共のマナーに適った場であるという共通認識に立ち、使用マナーの向上に努めたい。
	各部・各学年と連携し、学習館の利用を促進する。	年間の使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。 ②	A		
		各学年と連携し、課外等での利用を促進する。 ②	A		
		教務部、生徒指導部等と連携し、学習活動等に活用しやすい環境を整える。 ④	B		
SGH推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し、自ら考えさせる態度を育成する。 ②⑨⑩⑪	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生はICT技術を用いた活動を継続的にを行い、コミュニケーション能力をさらに向上させる。 ・2年生はビジネスプランの実現を目指し、課題解決のための思考力をさらに養う。 ・3年生は後進の指導と進路実現を目指し、SGH活動のモデルケースを構築する。
	人的ネットワークの構築を推進する。	起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。 ②④⑦⑨⑩⑪	A		
	コミュニケーション能力と情報伝達能力の向上を推進する。	将来グローバル社会で活躍するのに必要となる、国内外の社会・文化の諸問題の理解力を、外国人教師の授業等を通じて育成する。 ①②③⑨⑩⑪	A		
		ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。 ①②⑩⑪⑫⑬	A		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。 ②⑨⑩⑪	A		
グローバル人材の育成を推進する。	サマースクール、リーダー研修会等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。 ②⑤⑥⑧⑨⑩⑪	B			
第1学年	授業中心の主体的な学習スタイルを確立し、自己実現に向けて幅広い知識と教養を身に付ける。	挨拶、容儀、時間管理など日々の生活の中で高いレベルで自らを律する姿勢を養う。 ④⑤⑦	A	A	授業中心の学習を継続し、まずは不振者を減らして筑波レベル以上を目指す集団を厚くする。2年次後半から上位者の育成に円滑にシフトできる体制を整えたい。各種学校行事を通して、リーダーの育成やネットワークの形成は着実に図れている。一方で、ゲーム依存の生徒への対処の必要性を感じる。
		全ての教科・科目において生徒を主体的に参加させる授業を展開し、自ら取り組み考える姿勢を培うとともに、知見と視野を広げる。 ①②③⑨	A		
		習慣と反復の重要性を認識させ、安定した生活習慣と復習を中心とした毎日の継続的な自学の習慣を確立させる。 ①②④	B		
	高い目標を設定し、それに向けて自らを律し努力する姿勢を養う。	企業訪問やOB・OGガイダンスなどを通じ、広く社会に目を向けさせ、将来に向けて高い目標設定をできるよう喚起する。 ⑦⑧⑨	A		
		ホームルームや面談を通じて自らの課題を意識させ、目標達成に向けた今後の見通しを立てさせる。 ④⑤⑥	B		
	部活動や学校行事を通して能力を育成する。	委員会や部・同好会の活動に積極的に参加させ、集団内でのリーダーシップを育成する。 ⑤⑦⑨	A		
		生徒間の教え合いを活発化させ、知の伝達を「ネットワーク型」にする。特に、成績上位者に教える意義をしっかりと伝え、情報発信者として機能させる。 ③⑨⑩	B		
	SGH事業を通じ、探究する姿勢を養うとともに、情報発信力を育む。 ⑨⑩⑪	A			
第2学年	自主的・計画的な取り組みにより、自立探究型の学習を確立する。	常に各教科や進路の目標を意識させ、自らすすんで学習する姿勢を養う。 ①②③⑪	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間は順調に伸びている。受験に向け、自ら課題や方策を見出す主体的な学習姿勢を培っていきたい。 ・意識向上による中下位層の底上げを行いつつ、課外等による上位層の学力向上を並行して進める。
		学習計画、日課表、手帳などを活用し、自らの学習や生活をマネジメントさせる。 ①②③	B		
	すすんで見聞を広げ、社会で活躍するためのビジョンを持つ。	学習の振り返りや面談を通じ、計画・実行・検証を繰り返して学力を向上させるよう促す。 ①②③⑧	A		
		進路講演会やOBOGガイダンスを通じ、大学や社会についての知識を深める。 ⑦⑩⑪	A		
	リーダーシップを発揮して集団に貢献し、学校の諸活動を担う。	研究室訪問、オープンキャンパスなどを通じ、主体的に進路について考える姿勢を養う。 ⑦	A		
		面談やHRを通じ、この先求められる能力や資質について考えさせ、向上心を持たせる。 ⑦⑧	A		
		生徒会活動や三大行事、部・同好会での活動を通じ、学校の中核であることを意識させる。 ④	A		
	特別活動において責任や役割を担わせることで、リーダーとしての資質を培う。 ④⑨	B			
	HR活動、宿泊学習、道徳などを通じ、規範意識を養い、集団に貢献する姿勢を養う。 ④⑤	A			
第3学年	将来を見据えて、自主的・自律的な規律ある生活習慣の確立を図る。	心身の健康に留意させ、学業と部活動、各種委員会活動を両立させた学校生活を支援する。 ①②④⑥	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の長期的な展望に立ち、じっくり生徒を育てることが大切だと痛感した。1年次の学習や生活の躰が生徒の能力発揮のためにたいへん重要であると感じる。 ・学年の先生の結束で、こちらの目指すべき方向に持ってこられたと思う。仕事の分担化がシステマ的にできると良い。
		学校行事に主体的に参加させ、世界に通用する広い視野を持つリーダーを育成する。 ②⑩⑫⑬	A		
		土浦一高生にふさわしい生活態度・学習態度を身につけさせる。 ①④⑤⑩	A		
	一高の伝統である「授業を大切に」を継承する。	知識を獲得し、思考力を鍛えるために、日常の授業を重視させる。 ①②⑨	A		
		生徒個々の能力を最大限に発揮させ、表現力と発信力を育成する。 ⑩⑪⑫	A		
	高い進学目標を掲げ、その達成を目指して粘り強く努力する。	安易に受験科目を絞ることなく、多科目をバランス良く積極的に学習させ、教養を高める。 ①③⑧	B		
		こまめに面談を行い、一人一人の抱える諸問題の相談にのる。 ⑥⑨	A		
教員間で密接に連絡を取り、様々な面で生徒一人一人の伸張を支援する。 ③⑤⑥		A			
	放課後の教室、土曜・祝日・長期休業の学習館開放を通して、自学自習の環境作りを支援する。 ①③	A			
	国公立大を中心に各自に合った志望校を幅広く検討し、難関大学への進学研究に努める。 ③⑦⑧	A			
	後期個別試験までしっかり受験する高い目的意識を確立させる。 ⑦⑧	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の確かな定着を図る。	授業計画を生徒に配布し、目的意識を持たせ、予習・復習等の学習をさせる。①②	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年間の情報交換を綿密にして進路実現に向けた効果的な指導を行い、生徒の国語力の伸長を図る。 ・多様な生徒の現状に合わせて、適切な授業や補習を行う。
		言語活動を積極的に取り入れ、全ての教科の基礎となる言語技術に関するメタ認知を高める。①②	B	
	探求型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。	個々の国語力の伸長を目指して、教科書以外にも課題を精選して与え、自学自習の習慣をつける。①②	A	
		生徒のニーズに合わせた特別講座や、学力不振の生徒に補講を行い、幅広い層の学力の向上を図る。①②	A	
	指導力の向上を図る。	教科横断的な協同学習や表現活動を取り入れることで、国語力を総合的に伸ばす。①②	B	
		単元ごとの授業内容や、毎回の考査問題の協議を行い、的確な学力評価を行う。③	A	
地歴	世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会貢献できる生徒の育成を図る。	考査や模擬試験等の結果の分析を授業計画にフィードバックし、効果的な授業を構築する。③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界についての興味や関心を高め、理解を深めさせる。 ・授業や教材の創意工夫を続け、地理歴史に関する思考力を高める。また、資料や史料から読みとらせる力の養成も継続的に続ける。 ・観点別評価を取り入れた評価について、研究を進める。
		相互の授業見学を含む校内研修の実施や、校外研修等に参加するなど指導技術の向上に努める。③	B	
		世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟な捉え方を身に付けさせる。①②	A	
	我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。	世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。①②	B	
		世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。①②	A	
	現代世界で発生する種々の事象に対して、自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。	各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。①②③	A	
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。①②③	B	
		適切な主題を設定し、自らの考えを論述する活動を通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。①②	A	
		系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習を通して具体的に現代世界に興味・関心を持って眺める態度を養う。②③	A	
	公民	国際人としての自覚を養い、倫理の諸問題に着目しながら課題解決できる姿勢と能力を養う。	授業進度の適切な時期を捉えて、調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。②③	
3年次では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。①②③			A	
政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、関心を持って眺める態度を育成する。		倫理で必要とされる基礎的知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。①②③	A	
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開する。	青年期における自己形成と人間としての在り方・生き方についての理解と思索を深めさせる。②④	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心とした学習計画や予習復習の学習習慣を更に徹底させる。 ・新学習指導要領のもとでの指導法の研究を進める。 ・様々な学力層が混在しているので、学力層に合わせた指導を展開する。
		民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的に捉え、考えさせる。①②③	A	
		綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習計画を促す。また、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。①②③	A	
		授業重視を徹底させる。日常の自己学習を徹底させる。①	A	
		授業中心の学習計画を立てさせ、「予習→授業→復習」の学習習慣を確立させる。①②③	B	
		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に生かす。①②③	A	
		基本事項の理解を徹底させると共に、問題演習を十分に行う。①	B	
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。①②③	A	
3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。②	A			
進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。②③	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究と工夫に努める。あわせて、発展的な内容や話題について提供する。①②③	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の習熟度に応じた指導法のさらなる研究が必要である。特に、授業の理解に困難が生じている生徒に対する支援についての検討が課題である。 ・観点別評価をさらに進めるために、評価のための指導や考查の内容について研究を行う必要がある。 ・科学の甲子園や科学オリンピック出場の子供への指導法の検討が必要である。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組み、現象を見る目や探究心を養う。また、その内容のまとめ、考察、発表を通して学力の定着を図るとともに科学的な能力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的な内容に触れさせることで科学的な探究心を育てる。①②	A	
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。	授業で履修する事柄が自然や生活の中の仕組みにどのように関わっているかを取り上げることにより科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育む。②	A	
	基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に生かす。演習問題等を精選し、授業や添削指導などを通して、基礎学力を確実につける指導を行う。②③ 3学年の生徒には、基礎学力定着の確認を行うとともに、発展的な応用力の養成と定着に努め、良質な演習問題や試験問題の作問に努め、高いレベルの学力や思考力を育成し、最難関大学の受験へ対応できるようにする。②③	B A	
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導する。	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力して活動することの大切さを指導する。①②③④⑤⑨	A	体育では、種目や集団の特性に応じて工夫しながらゲーム運営する能力を養う指導を継続する。そして自ら率先して用具管理や安全への配慮ができる態度を育成したい。多くの生徒に周囲をリードさせる場面を与えることで、リーダーシップを育成したい。短時間で効果的に実践できるスキル向上ドリルの開発や、思考力を高めるための発問を工夫したい。保健では、課題学習の内容を濃くするための指導方法や発表方法について工夫したい。体育的行事においては、積極的な生徒支援を行い、事故を未然に防ぐために生徒観察を怠らないようにしたい。危険箇所の早期改善を要求し、安全な体育施設の利用を促進したい。
		集団の特性に応じた、ゲームの工夫ができる能力や態度を育成する。①②③④⑤⑨	A	
		準備や片付けを率先して行う態度を養い、集団に寄与する精神を育てる。③④⑤⑨	B	
		1学年の保健においては、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。①②③④⑤⑨	B	
	運動を通して、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	2学年の保健においてはグループ研究、発表を実施し、共同で学習する事によって仲間意識や責任感を持たせるよう指導する。①②③④⑤⑨	A	
		克服的な種目を実施することで、チャレンジ精神を養い、達成感を味わわせる。①②③④⑤⑨	A	
		苦手なことにも取り組みやすいように、関心・意欲・態度の評価を重視する。③④⑨	A	
	体育的行事を推進する。	準備体操とともに、体力向上のための運動を積極的に取り入れる。①②③④	B	
		個人スキル向上のためのドリルを工夫し、よりよいゲーム運営につなげる。①②③④⑤⑨	A	
		スキー教室での経験が生涯スポーツへと発展させられるように、安全で楽しい行事を計画、実施する。②③④⑤⑨	A	
新体力テストを通して自己の体力を客観的に評価し、日頃から健康への意識を高められるような態度を育成する。②③④⑤⑨		A		
運動・スポーツ活動における安全指導を充実させる。	一高オリンピックの計画、実施を生徒が主体的に行えるよう支援し、行事運営の能力を育成する。②③④⑤⑨	B		
	運動部員が、クラスや行事においてもリーダーシップを発揮できるように、指導育成する。①②③④⑤⑨	A		
	活動中の健康観察を徹底する。③	A		
芸術	多様な表現活動を通して芸術表現・鑑賞の楽しさを味わわせ、芸術を愛好する心情を育てる。	周囲の者の健康状態を観察したり、危険を察知する能力や態度を育成する。健康、安全に関する自己管理能力を育成する。②③④⑤⑨	B	
		生徒一人一人の感性に沿った個別指導を充実させる。①②	B	
		生徒の実態に則した課題選択をし、授業内容及び指導方法を創意工夫する。②③	A	
		自ら工夫した表現活動や能動的鑑賞することにより音楽の諸能力の向上を図る。①②	B	
家庭	生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る力と実践的な態度を育成する。	相互鑑賞をし発表することで鑑賞者に制作意図を理解させ、発表能力と鑑賞能力の向上を図る。①②	B	
		各分野の授業において、生徒が興味・関心を持ち、取り組む学習内容を研究し、発展的な知識・内容についても提供する。①②③	A	
		授業において学習した知識や技術を活かし、家庭生活における課題を主体的に解決する態度を育成すると共に、家庭や社会との共生を目指し、生活の充実を図る能力を育む。①③	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
国際	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動を行うにあたり、大学教員の講義、留学生ワークショップ、海外大学との連携等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し、自ら考えさせる態度を育成する。 ①②③⑩	A	A ・課題研究の質の向上。そのために筑波大学の教員など、アカデミック分野やビジネス分野の先端を知る方をうまく利用し、ご指導を仰ぐ。 ・地域への還元。地元小中学校や他の県立高校との協働を加速し、グローバルとローカルで多面的な活動を行う。	
	人的ネットワークを構築する力を養う。	起業教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築させる態度を育成する。 ①②③⑩⑬	A		
	英語力とICT技術を養う。	将来グローバル社会で活躍するのに必要となる、国内外の社会・文化の諸問題の理解力を、外国人教師の授業等を通じて育成する。 ⑦⑩⑪	A		
		ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会を通して、情報の伝達力を育成する。 ③⑫⑬	A		
	幅広い視野を養う。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。 ④⑦⑧⑩	A		
	コミュニケーション能力を養う。	サマースクール、リーダー研修会等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。 ⑤⑨⑩	A		
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業を展開し、実践的コミュニケーション能力を養う。	全体	A	A 4技能のバランスを重視して、英語運用力の統合的かつ総合的な指導を行う。 ・1年 4技能の調和のとれた伸長を図り、自立した学習者への基礎を養う。 ・2年 生徒自ら目標を定め、それに向かって自発的な学習を継続して実行できるように支援を行う。 ・3年 生徒の進路実現のため、各レベルにおいてきめ細かい指導を目指す。特に全体を引っ張る上位層の意識向上を重視する。	
		・教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ①	A		
		・英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ⑩⑪	A		
		・読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。 ①②③	A		
	第1学年の目標 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	第1学年の具体的方策			
		・授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ①	A		
		・語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ①	A		
		・英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ①②	A		
		・辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ①②	A		
	第2学年の目標 第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	第2学年の具体的方策			
		・第1学年で培った生徒の英語力を踏まえて、一人一人の生徒の学力を伸ばす授業を展開する。 ①②	A		
		・構文力を確かなものにする小テストを継続実施する。 ①	A		
		・正確でまとまりのある英文が書ける力を養えるような授業を展開する。 ①	A		
		・ディベート指導を進めることで、課題解決能力を持った世界に通用する人材の育成を図る。 ①②③⑪	B		
	第3学年の目標 生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	第3学年の具体的方策			
・第1、2学年で培った英語力を踏まえ、生徒の英語力を確かなものにする授業を展開する。 ①②		A			
・大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考査を実施する。 ①②⑪		A			
・国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の指導を充実させる。 ①		A			
・センター試験で各生徒の進路希望実現に必要な成果が出るように、直前対策を実施する。 ①		A			

5段階評価 A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった

